

(参考情報) 韓国農林畜産食品部公表情報

**農林畜産食品部プレスリリース (2017年2月22日18時00分付け)**  
**全羅南道海南郡の肉用あひる農場でH5N8亜型のAIを確認、**  
**忠清南道青陽郡の採卵鶏農場でAIの疑い申告**

出典URL:

[http://www.maf.go.kr/list.jsp?&newsid=155449143&section\\_id=b\\_sec\\_1&pageNo=1&year=2017&listcnt=10&board\\_kind=C&board\\_skin\\_id=C3&depth=1&division=B&group\\_id=3&menu\\_id=1125&reference=&parent\\_code=3&popup\\_yn=&tab\\_yn=N](http://www.maf.go.kr/list.jsp?&newsid=155449143&section_id=b_sec_1&pageNo=1&year=2017&listcnt=10&board_kind=C&board_skin_id=C3&depth=1&division=B&group_id=3&menu_id=1125&reference=&parent_code=3&popup_yn=&tab_yn=N)

(機械翻訳等に基づく仮訳)

農林畜産食品部は、2月21日(火)のあひるの出荷前検査でAI陽性を示した全羅南道海南郡の肉用あひる農場について、H5N8亜型鳥インフルエンザと確認されたと明らかにした。当該事例が高病原性鳥インフルエンザかどうかは、2月23日に判明する予定である。

現在までに、野鳥において高病原性鳥インフルエンザ(以下HPAI)は、計59件検出され、うちH5N8亜型は10件、残りはH5N6亜型であった。

養鶏場におけるH5N8亜型HPAIの発生は、2月6日に申告された全羅北道金堤市の農場に続き2例目である。

農林畜産食品部は、全羅南道海南郡の発生農場(1戸、約2万3千羽)及び半径500m以内の農場の家きん(1戸、約1万6千羽)の両方について殺処分を完了し、発生農場を中心に防疫区域を設定し、清掃・消毒、移動制限などの緊急防疫措置を実施していると明らかにした。

農林畜産食品部は、過去のH5N8亜型HPAIがあひるを中心として伝播されたことから、あひる密集地である全羅南道・全羅北道地域でHPAIが拡大しないよう、野生の渡り鳥の飛来地と移動経路近くの養鶏場を中心に、出入り制限、防鳥網の設置・補修などを通じた遮断防疫強化、毎日の予察と点検などを介してAI追加発生の遮断に最善を尽くしていると明らかにした。

一方、農林畜産食品部は、忠清南道青陽郡の採卵鶏農場(約8万羽)でAIの疑い事例が申告されたことをうけ、移動制限などの緊急防疫措置を実施中である。AIのタイプと高病原性かどうかについては、早ければ2月24日~25日に確認できる予定であると明らかにした。